

15 川端 康成文学碑

■場所

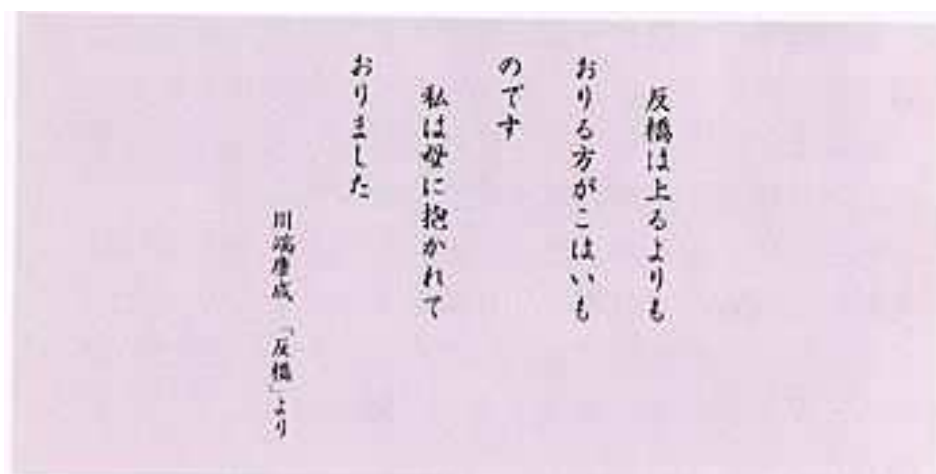
住吉区住吉二丁目

住吉大社内

■交通

阪堺線:鳥居前

南海本線:住吉大社



川端 康成(1899年～1972年)

川端康成は、明治32年(1899年)大阪市北区此花町一丁目(現北区天神橋一丁目)に生まれ、昭和47年(1972年)4月16日死去した。

三島郡豊川村尋常高等小学校(現茨木市豊川小学校)、茨木中学校(現茨木高等学校)、第一高等学校(現東京大学)を経て、東京帝国大学文学部英文科にすすんだ。

幼時に父母を失い、その後、祖母、姉、祖父を次々に失い、16歳のとき天涯孤独の身となった。

中学校在学中から小説家を志し、第一高等学校 2 年生の秋、初めて伊豆に旅し、旅芸人と道づれになり、その経験をもとに後年「伊豆の踊子」を書いた。

大正 10 年、石濱金作、今東光らと第六次『新思潮』を創刊。「招魂祭一景」で菊池寛らの好評を受けて、大正 12 年、『文芸春秋』の同人に加えられた。

大正 13 年大学卒業後、横光利一らとともに『文芸時代』を創刊し、「伊豆の踊子」などを発表して作家的地位を確立した。その後、「浅草紅団」など浅草ものといわれる作品を書き、また「禽獣」から「雪国」にいたって、いわゆる川端文学の一頂点をきわめた。

戦後も、「千羽鶴」「山の音」「眠れる美女」「古都」などを発表し、みがきぬかれた文体で独自の叙情の世界を描きつづけた。昭和 36 年、文化勲章を受章。また、昭和 43 年には、日本人として初めてのノーベル文学賞を受賞した。

「反橋」は、昭和 22 年『風雪』に発表され、「反橋・しぐれ・住吉」の三部作の一つで、ノーベル賞受賞記念講演「美しい日本の私」にまでつながる作品として、「川端文学上のふるさと」といわれている。

墓所は、神奈川県鎌倉市の鎌倉霊園。